

2023年3月期第2四半期

決算説明会

2022年11月11日



タキロンシーアイ株式会社

証券コード 4215 東証プライム市場

1 2023年3月期第2四半期連結決算実績 P. 3

2 2023年3月期連結業績予想 P. 17

TOPIC ジッパーテープ増産投資について P. 21

Information 統合報告書2022発行のお知らせ P. 23

Appendix 会社概要・当社の特長 P. 25



1

2023年3月期第2四半期

連結決算実績



1-1. 連結決算ハイライト

2023年3月期第2四半期 実績

- 売上高72,515百万円(前期比+3.0%)
- 営業利益3,090百万円(前期比△35.5%)

(百万円)

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前期比
売上高	64,175	70,417	72,515	+2,097
営業利益	3,675	4,792	3,090	△1,702
経常利益	3,783	4,998	3,318	△1,680
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,086	3,480	1,862	△1,617

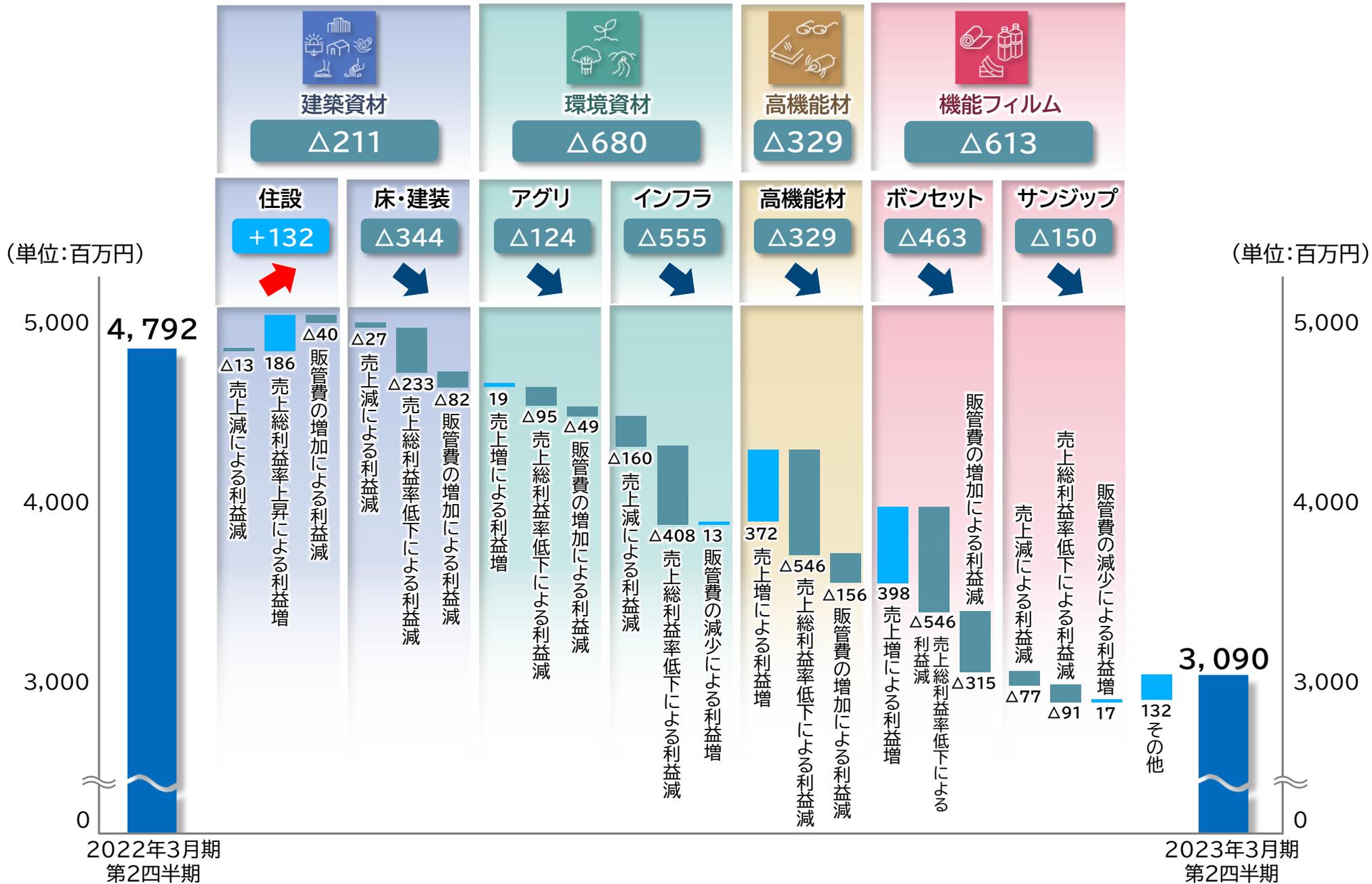
- 売上高は、緩やかな景気持ち直しのなか、原材料価格高騰に伴う製品販売価格への転嫁等もあり、前期比3.0%の増収
- 営業利益は、原材料価格の高騰、価格転嫁へのタイムラグ、さらに上海に拠点のある事業会社(3社)にて3月末～5月末迄操業停止、緊急事態宣言解除に伴う各種経費の増加などにより前期比△35.5%の減益
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、営業利益段階での減益により、前期比△46.5%の減益

連結損益計算書

(単位:百万円)

	実績					
	2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	70,417	100.0%	72,515	100.0%	2,097	+3.0%
売上総利益	20,423	29.0%	19,218	26.5%	△1,205	△5.9%
販売費及び 一般管理費	15,630	22.2%	16,127	22.2%	497	+3.2%
営業利益	4,792	6.8%	3,090	4.3%	△1,702	△35.5%
経常利益	4,998	7.1%	3,318	4.6%	△1,680	△33.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,480	4.9%	1,862	2.6%	△1,617	△46.5%
海外売上高	13,106	18.6%	13,975	19.3%	869	+6.6%
1株当たり四半期純利益	35.76円	---	19.16円	---	△16.60円	△46.6%

連結営業利益増減要因分析



原材料価格高騰

資源高と為替の影響により前年から大きく原材料価格が高騰
価格転嫁については昨年度から継続して実施中
原材料価格値上げの製品価格への転嫁にタイムラグが発生(3~6ヶ月程度)

上海ロックダウン

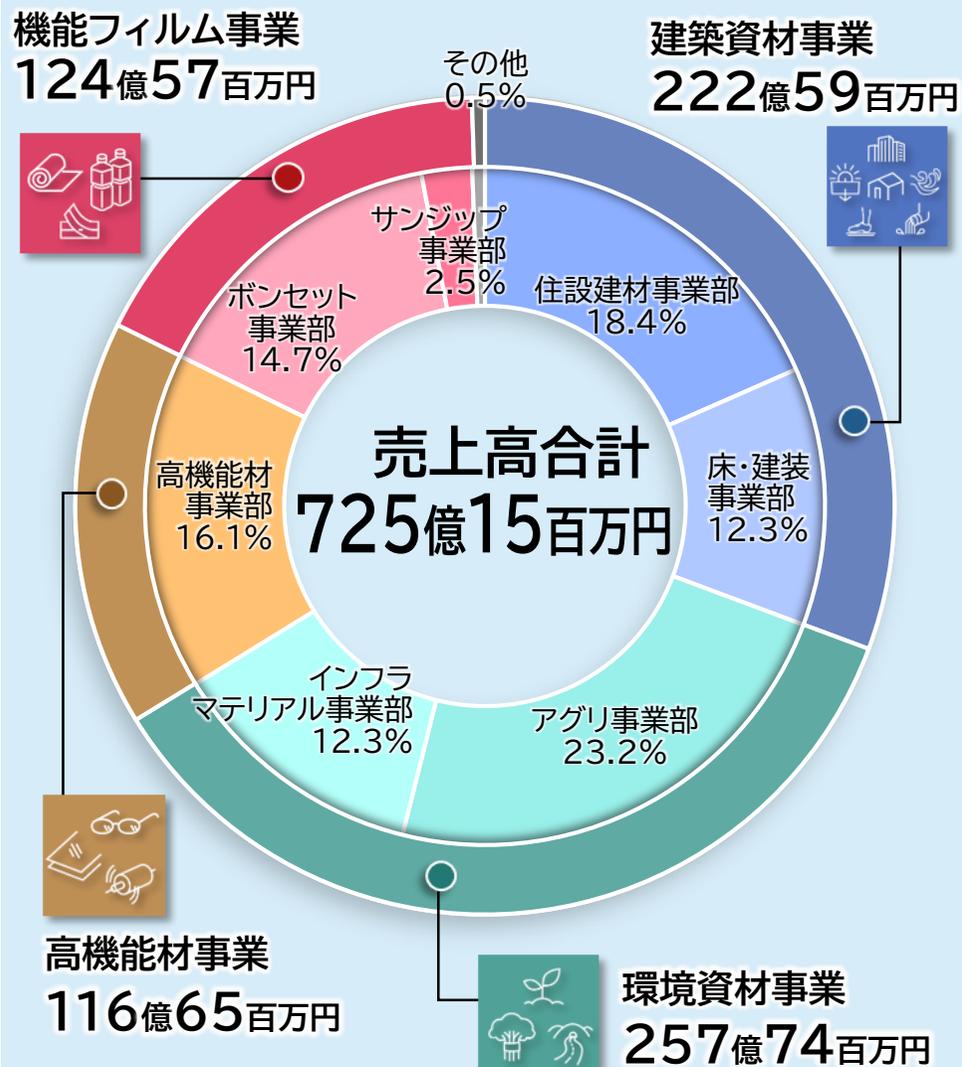
上海に拠点のある事業会社(3社)にて3月末~5月末迄操業停止(6月~操業再開)
影響額想定:3社計 約2億円のマイナス影響(営業利益)

為替の影響

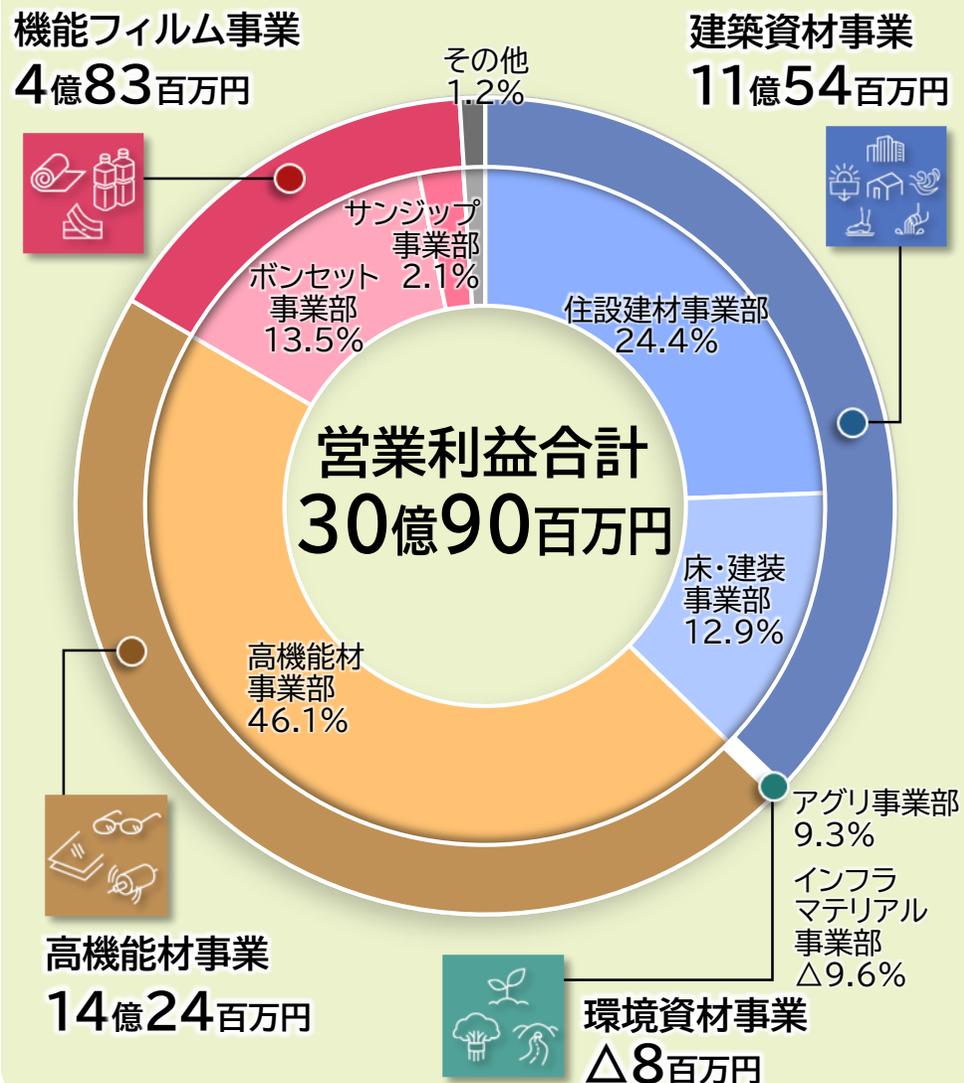
海外事業会社の円貨への換算はプラス影響
(対前年:売上+1,839百万円、営業利益+184百万円)

セグメント別売上高・営業利益構成比

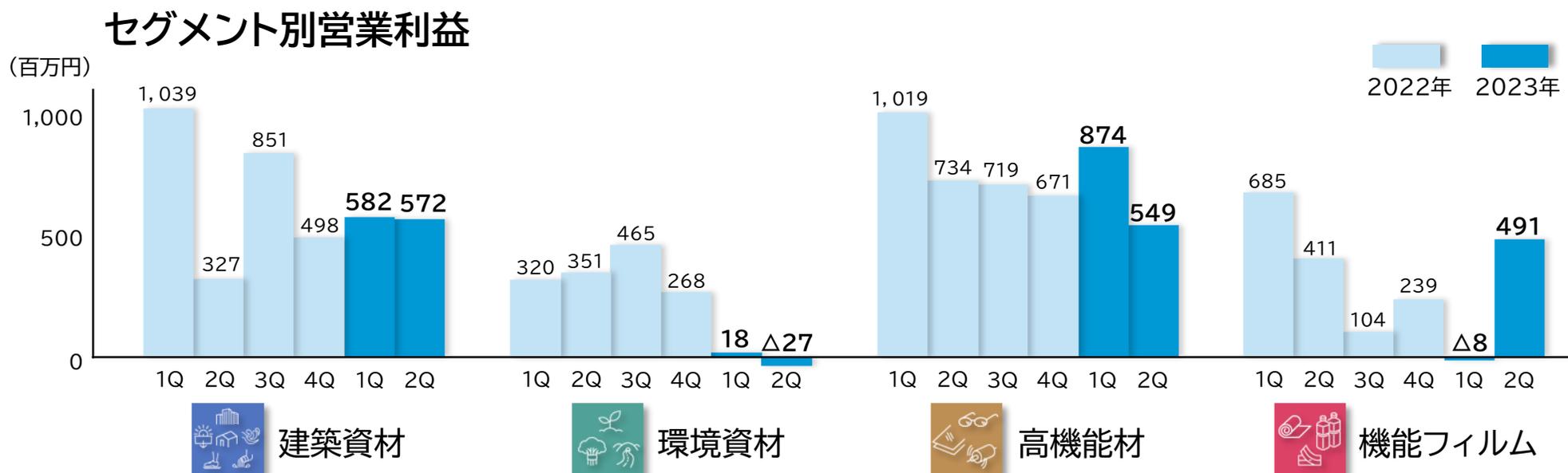
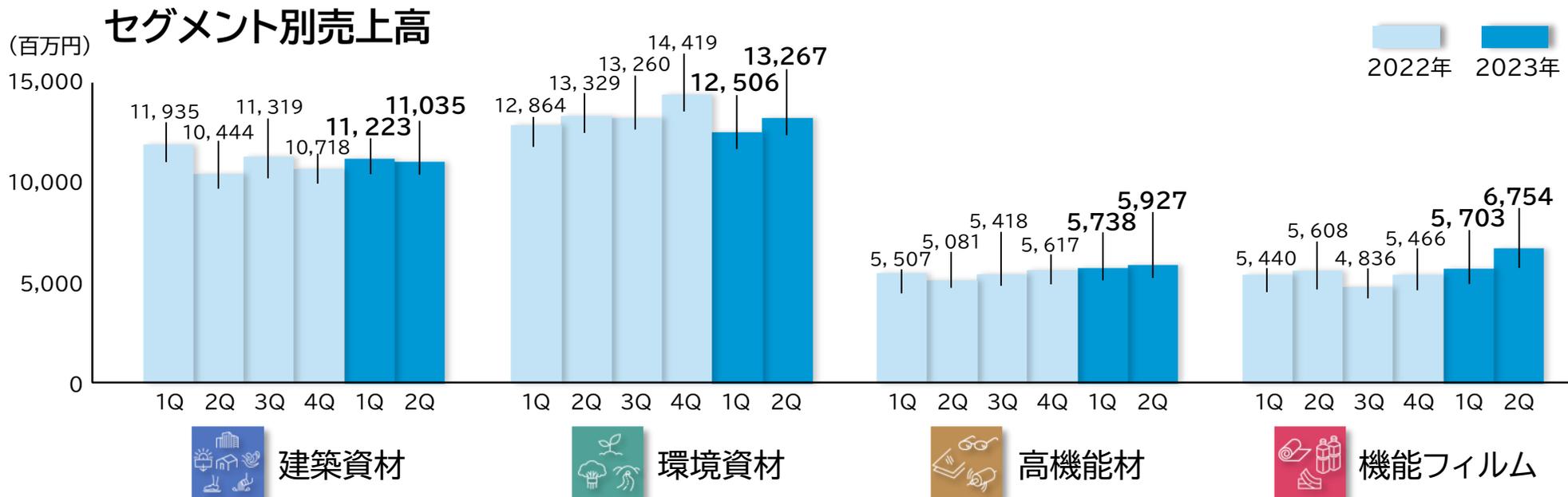
売上高



営業利益



セグメント別四半期推移



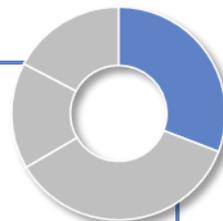
主要関連動向

セグメント	関連指標	20FY→21FY	21FY→22FY	2023FY概況
 建築資材 セグメント	新設住宅着工戸数	↑	↓	昨年度はコロナ影響からの回復が見られたが、今年度については若干減少傾向
	分譲マンション改修工事	↑	→	コロナ影響により延期されていた案件の発注が継続し引き続き好調を維持
 環境資材 セグメント	農業資材の需要	↑	↓	原材料価格高騰による肥料や各種資材の価格上昇により更新需要が減退
	土木公共工事状況	↓	↓	当社関連案件については、継続して工事の中断、延期により不調
 高機能材 セグメント	半導体需要	↑	→	世界的な半導体需要は落ち着きが見られるが、半導体製造設備の需要は堅調を維持
 機能フィルム セグメント	ペットボトル消費動向	→	→	欧米を中心に需要は堅調を維持

※ 関連指標および概況につきましては、当社の取引先様からのヒアリング等を参考にし当社にて判断したものであり、公的データを元にしたものではありません。

建築資材事業セグメント（住設建材事業・床・建装事業）

- 住設建材事業は、製品値上げに伴う売上高の増加がありましたが、建設資材や畜産飼料価格の高騰による設備投資減少の影響を受け、非住宅物件および畜産資材の販売が低調に推移しわずかに減収
- 営業利益は、原材料および物流費の高騰がありましたが固定費の削減や製品値上げが寄与し増益
- 床・建装事業は、床部門において、マンション改修工事物件への販売が引き続き順調に推移し増収
- 建装部門においては、海外市場の主力である欧州市場の減速、中国、アジアの回復遅れが継続し減収
- 営業利益は、建装部門の主力である欧州市場の減速の影響が大きく減益



建築資材事業

(単位:百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期第2四半期			
	2Q計	第1Q	第2Q	2Q計	
	実績	実績	実績	実績	対前年
売上					
建築資材事業計	22,380	11,223	11,035	22,259	△120 (△0.5%)
住設建材事業	13,365	6,527	6,797	13,324	△40 (△0.3%)
床・建装事業	9,014	4,696	4,238	8,934	△79 (△0.9%)
営業利益					
建築資材事業計	1,366 (6.1%)	582 (5.2%)	572 (5.2%)	1,154 (5.2%)	△211 (△15.5%)
住設建材事業	621 (4.7%)	318 (4.9%)	435 (6.4%)	753 (5.7%)	132 (+21.3%)
床・建装事業	744 (8.3%)	264 (5.6%)	136 (3.2%)	400 (4.5%)	△344 (△46.2%)

環境資材事業セグメント (アグリ事業・インフラマテリアル事業)



- アグリ事業は、需要期に合わせた価格改定が西日本から東日本に浸透する過程において駆け込み需要が引き続き発生、農業用資材全般が堅調に推移し増収
- 営業利益は、原材料価格の高騰により減益
- インフラマテリアル事業は、業界全体に新型コロナウイルスによる土木工事の発注数の減少および工事の中断などの影響が継続。当社の受注案件についても大型工事物件の長期中断や工事計画自体の変更などの影響が継続。また、前期は堅調であったハウエル管の大型物件への販売が低調に転じたため減収
- 営業利益は、販売減に加え、原材料価格の高騰に対し、製品値上げのタイムラグにより減益

環境資材事業

(単位:百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期第2四半期			
	2Q計	第1Q	第2Q	2Q計	
	実績	実績	実績	実績	対前年
売上					
環境資材事業計	26,194	12,506	13,267	25,774	△419 (△1.6%)
アグリ事業	16,752	8,427	8,429	16,857	104 (+0.6%)
インフラマテリアル事業	9,441	4,079	4,838	8,917	△523 (△5.5%)
営業利益					
環境資材事業計	671 (2.6%)	18 (0.1%)	△27 (△0.2%)	△8 (---)	△680 (---)
アグリ事業	414 (2.5%)	215 (2.6%)	74 (0.9%)	289 (1.7%)	△124 (△30.1%)
インフラマテリアル事業	257 (2.7%)	△196 (△4.8%)	△101 (△2.1%)	△298 (△3.3%)	△555 (---)

高機能材事業セグメント

- 高機能材事業は、半導体需要の好調持続により、製造装置向けの工業用プレート、エンプラ材の販売は高い水準を維持、また、電子回路基板向けのナノ材料販売は、期間を通して堅調に推移
眼鏡フレーム用アセテート板の販売については、海外ブランドからの引き合いが引き続き旺盛で伸長
- マイクロモータの販売は、上海ロックダウンによる操業停止の影響で減収となりましたが、操業再開後はフル稼働状況に転じ急速に回復方向に推移
- 営業利益は、原材料価格の高騰により減益



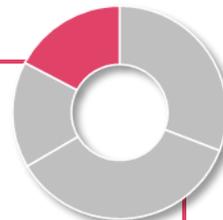
高機能材事業

(単位:百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期第2四半期			
	2Q計	第1Q	第2Q	2Q計	
	実績	実績	実績	実績	対前年
売上					
高機能材事業計	10,589	5,738	5,927	11,665	1,076 (+10.2%)
営業利益					
高機能材事業計	1,753 (16.6%)	874 (15.2%)	549 (9.3%)	1,424 (12.2%)	△329 (△18.8%)

機能フィルム事業セグメント (ボンセット事業・サンジップ事業)

- ボンセット事業は、シュリンクフィルムが国内販売および欧州市場で堅調に推移。北米市場においては原材料のタイトな状況から数量面では苦戦を強いられたものの製品値上げと円安効果により増収
- 営業利益は、原材料価格の高騰により減益
- サンジップ事業は、ジッパーテープが国内販売は好調ながら、海外販売は上海ロックダウンにより2ヶ月間に亘る操業停止を余儀なくされた影響により減収
- 営業利益は、原材料価格の高騰に加え、上海ロックダウンの影響が大きく減益



機能フィルム事業

(単位:百万円)

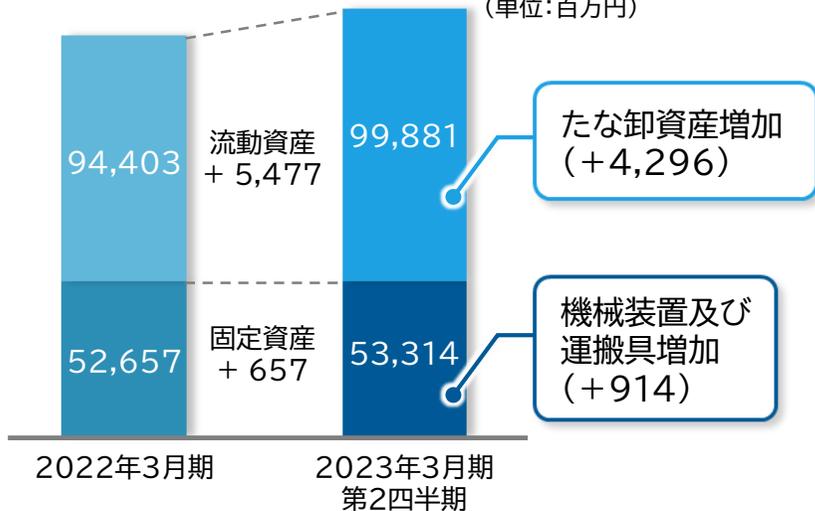
	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期第2四半期			
	2Q計	第1Q	第2Q	2Q計	
	実績	実績	実績	実績	対前年
売上					
機能フィルム事業計	11,049	5,703	6,754	12,457	1,408 (+12.7%)
ボンセット事業	9,084	4,909	5,778	10,687	1,603 (+17.7%)
サンジップ事業	1,965	794	975	1,769	△195 (△9.9%)
営業利益					
機能フィルム事業計	1,096 (9.9%)	△8 (△0.1%)	491 (7.3%)	483 (3.9%)	△613 (△56.0%)
ボンセット事業	880 (9.7%)	△39 (△0.8%)	457 (7.9%)	417 (3.9%)	△463 (△52.6%)
サンジップ事業	216 (11.0%)	31 (4.0%)	34 (3.5%)	65 (3.7%)	△150 (△69.6%)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

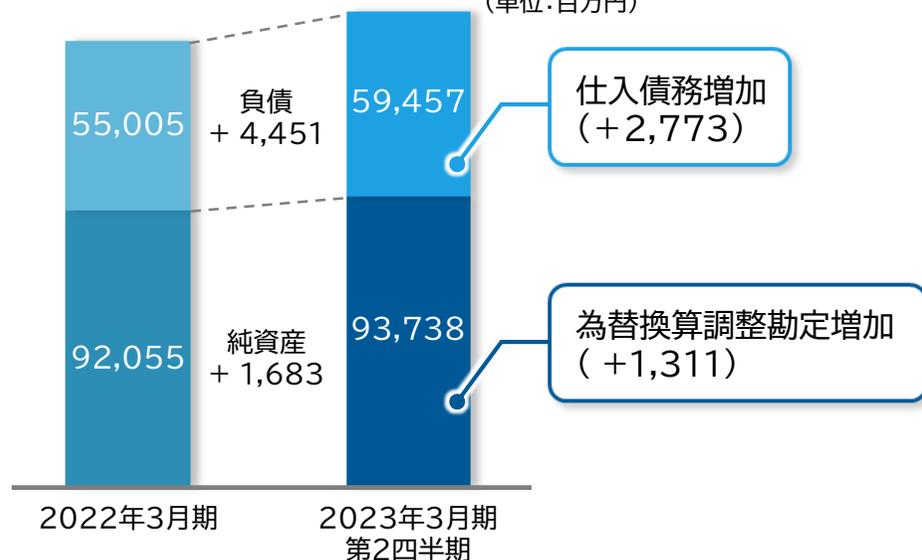
資産

(単位:百万円)



負債／純資産

(単位:百万円)



	2022年 3月期	2023年 3月期 第2四半期	増減額
流動資産	94,403	99,881	+5,477
現金及び預金	7,790	6,706	△1,083
売上債権	47,119	46,301	△817
たな卸資産	23,884	28,180	+4,296
その他	15,610	18,693	+3,083
固定資産	52,657	53,314	+657
有形固定資産	41,394	42,126	+732
無形固定資産	2,485	2,614	+129
投資その他の資産	8,777	8,573	△203
資産合計	147,061	153,196	+6,134
負債合計	55,005	59,457	+4,451
(有利子負債残高)	3,914	5,660	+1,745
純資産合計	92,055	93,738	+1,683
自己資本比率	61.4%	59.9%	△1.5%

連結キャッシュ・フロー計算書

- フリーキャッシュフローは2022年3月期第2四半期の2,088百万円から2,894百万円減の△806百万円
- 預け金は実質預金とみなせるため、その影響を除くとフリーキャッシュフローは2,300百万円





2

2023年3月期

連結業績予想



連結損益計算書

(単位:百万円)

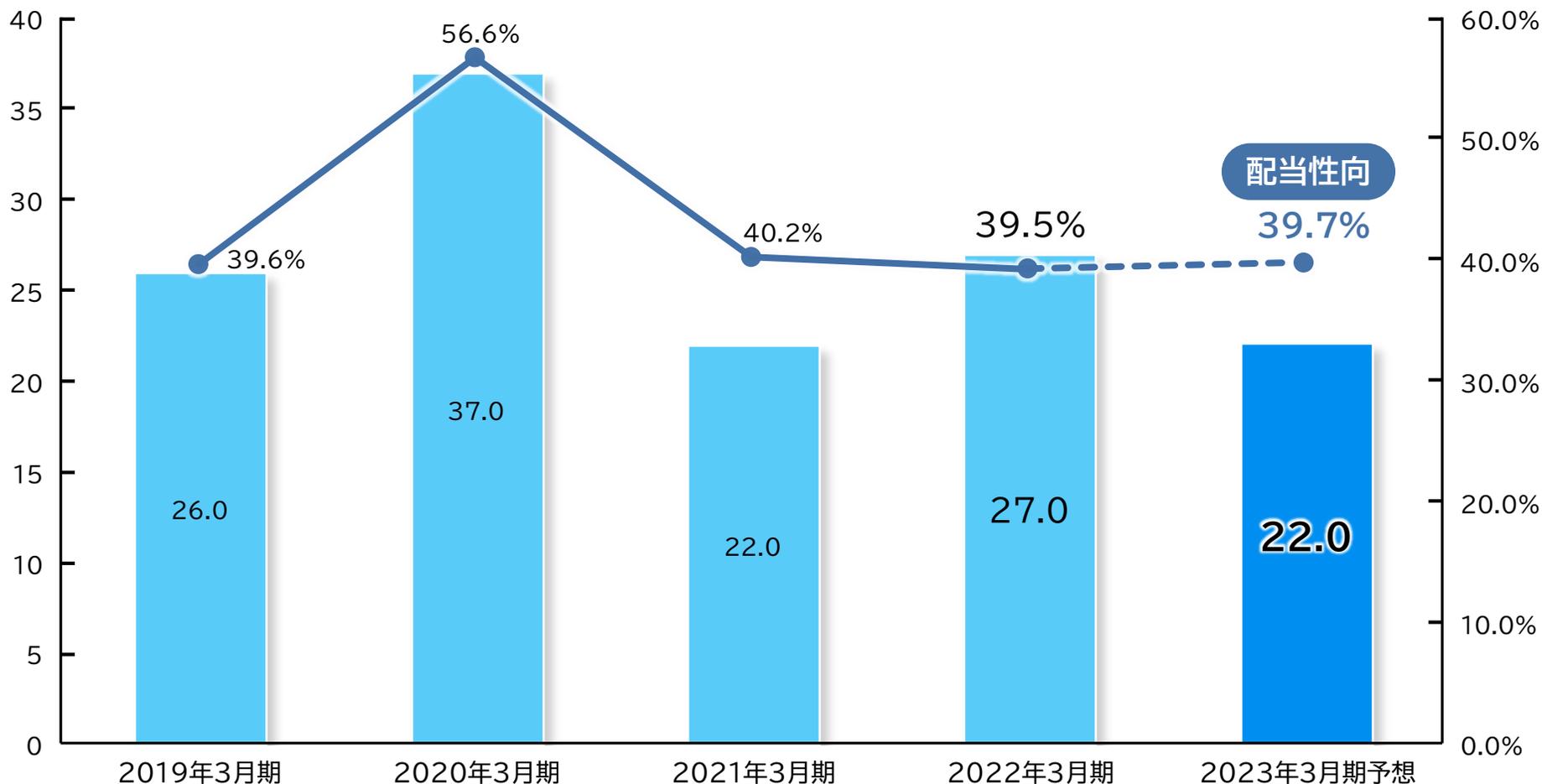
	実績		予想			
	2022年3月期(累計)		2023年3月期(累計)			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
増減額					増減率	
売上高	141,936	100.0%	150,000	100.0%	+8,063	+5.7%
売上総利益	39,822	28.1%	41,400	27.6%	+1,577	+4.0%
販売費及び 一般管理費	31,171	22.0%	33,200	22.1%	+2,028	+6.5%
営業利益	8,651	6.1%	8,200	5.5%	△451	△5.2%
経常利益	9,084	6.4%	8,400	5.6%	△684	△7.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,660	4.7%	5,400	3.6%	△1,260	△18.9%
海外売上高	25,192	17.7%	---	---	---	---
1株当たり当期純利益	68.47円	---	55.53円	---	△12.94円	△18.9%
ROA	4.6%	---	3.7%	---	---	---
ROE	7.6%	---	6.0%	---	---	---

配当推移

■ 2023年3月期末配当予想については1株につき22円を想定しております

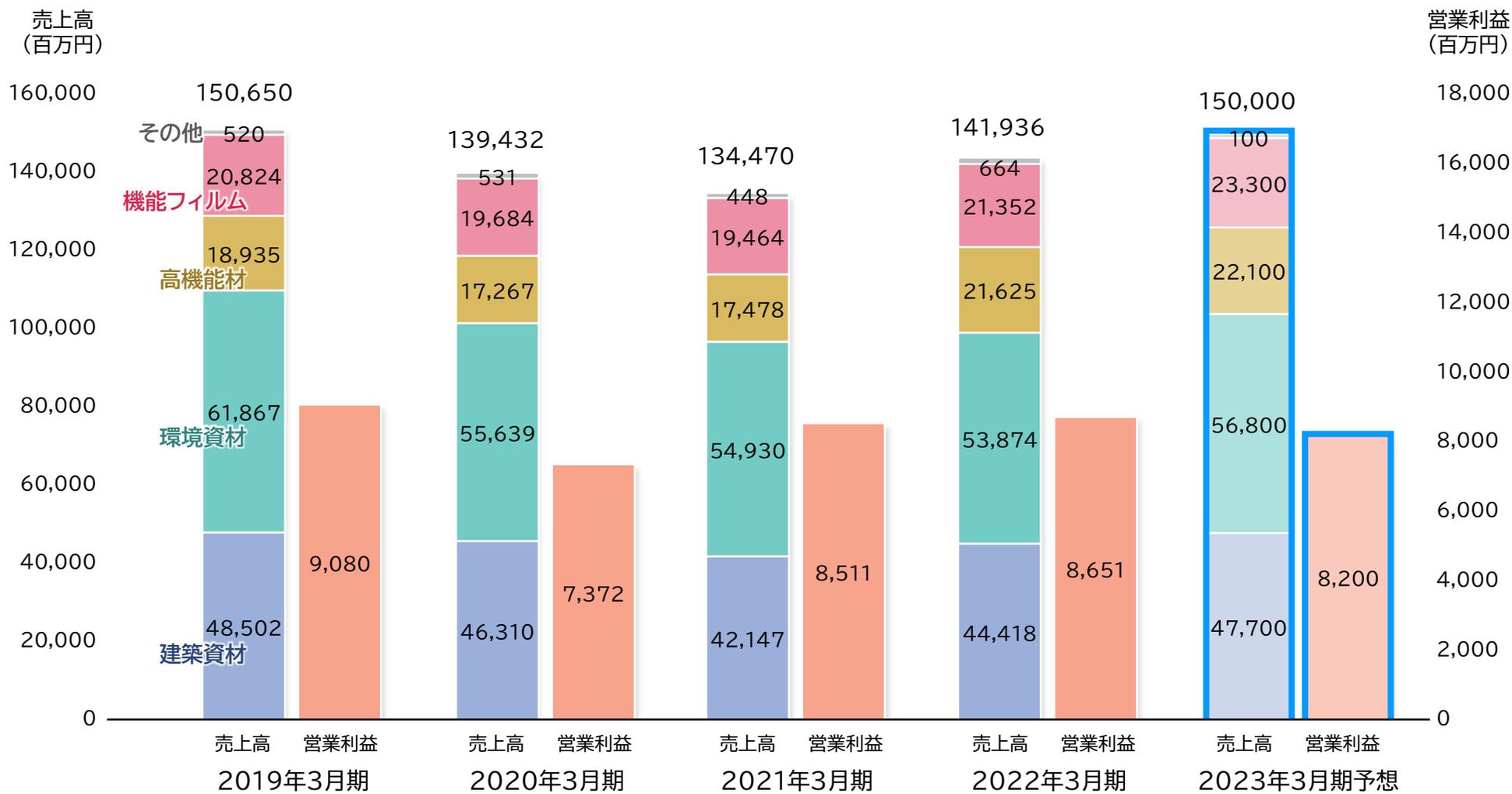
一株配当金額:円

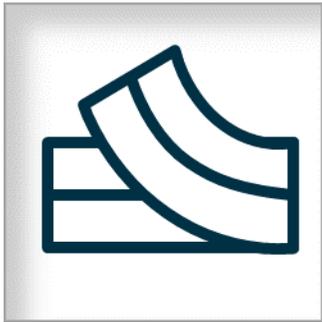
配当性向



(注) 配当性向は特殊損益を除いて算出しております。(2020年3月期は記念配当10円を除いた27円で算出)

売上高・利益推移





TOPIC

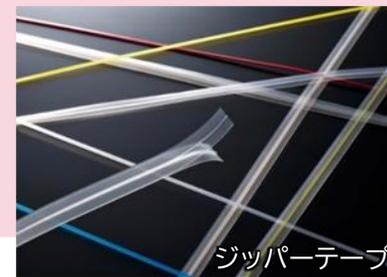
ジッパーテープ増産投資について



設備投資 ジッパーテープ増産のため7億円を設備投資/国内2拠点生産体制へ

サンジップ事業(ジッパー)

- 約7億円を設備投資し、ジッパーテープ「サンジップテープ」の増産体制を整備/国内2拠点による生産体制へ
- 【生産能力】 国内の生産能力は2023年3月には2割増
- 【安定供給】 生産能力の増強と、国内2拠点化による安定供給
- 【DX化】 設備の自動化、DX化により、生産技術の更なる向上を目指します



背景

- 【品質】
国内において8割を占める、食品と医療品の用途においては最高レベルの品質が求められ、国産品のニーズが高い。
- 【市場の拡大】
コロナ禍による衛生観念の向上やフードロスを少なくする リクローザブル機能への見直しもあり、
国内市場は今後も2～3%の伸長が見込まれている。
- 【安定供給、BCP】
旺盛な需要に対応し、かつ安定供給の観点から複数拠点にて生産。
タキロンシーアイ平塚工場に加えて、国内事業会社の(株)ボンパック内にサンジップテープの生産設備を導入。
上海の事業会社「上海桑普拉斯塑料有限公司(上海サンプルス)」含め3拠点化へ。





Information

統合報告書2022発行のお知らせ

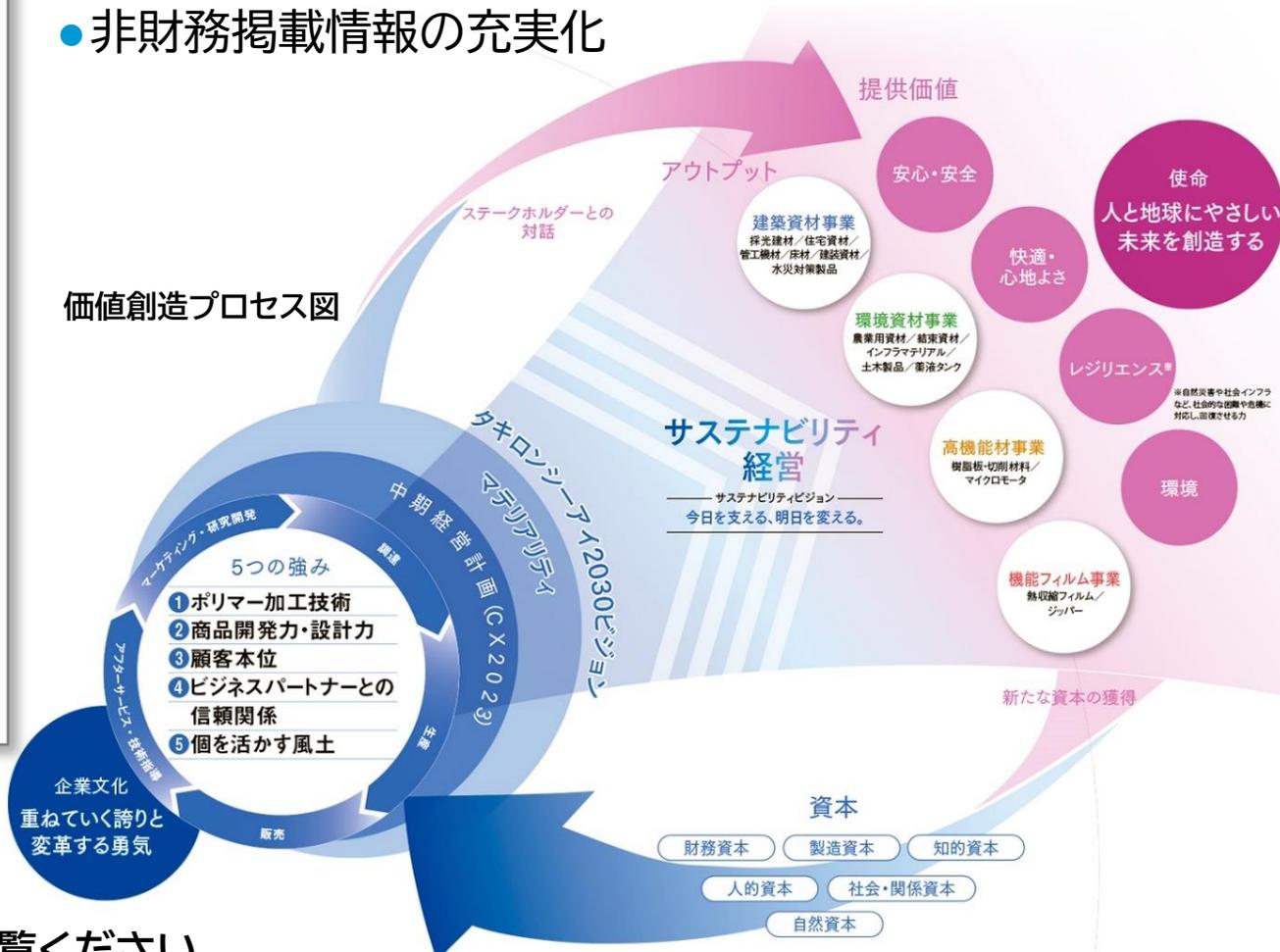




ポイント

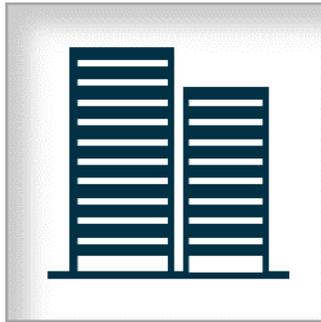
- サステナビリティ経営の具体化、詳細化、高質化
- カーボンニュートラル戦略の開示
- 非財務掲載情報の充実化

価値創造プロセス図



統合報告書2022は下記URLよりご覧ください。

<https://takiron-ci-catalog.meclib.jp/integrated-report-2022/book/index.html>



Appendix

会社概要・当社の特長



1. 会社情報・株式情報 (2022年9月末現在)

会社情報

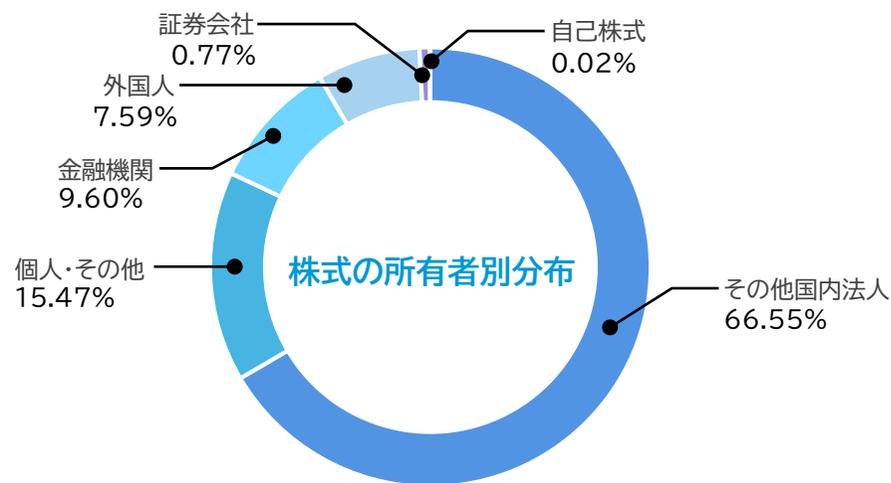
商号	タキロンシーアイ株式会社
創立	大正8年(1919年)10月10日
設立	昭和10年(1935年)12月20日
本社住所	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田三丁目1番3号 (ノースゲートビルディング)
電話	06-6453-3700
ウェブサイト	https://www.takiron-ci.co.jp
資本金	15,204百万円
従業員数(連結)	3,227名(2022年3月末現在)

大株主

株主名	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	55.51%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6.46%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2.02%
積水樹脂株式会社	1.40%
株式会社カネカ	1.35%
タキロンシーアイ持株会	1.26%
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1.00%
渡辺パイプ株式会社	0.90%
RE FUND 107-CLIENT AC	0.66%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託CBC口)	0.41%

株式情報

証券コード	4215
発行済株式数	97,553,655株
株主数	13,231名
上場証券取引所	東京証券取引所株式会社市場 プライム市場
単元株式数	単元株式数100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
会計監査人	有限責任監査法人トーマツ

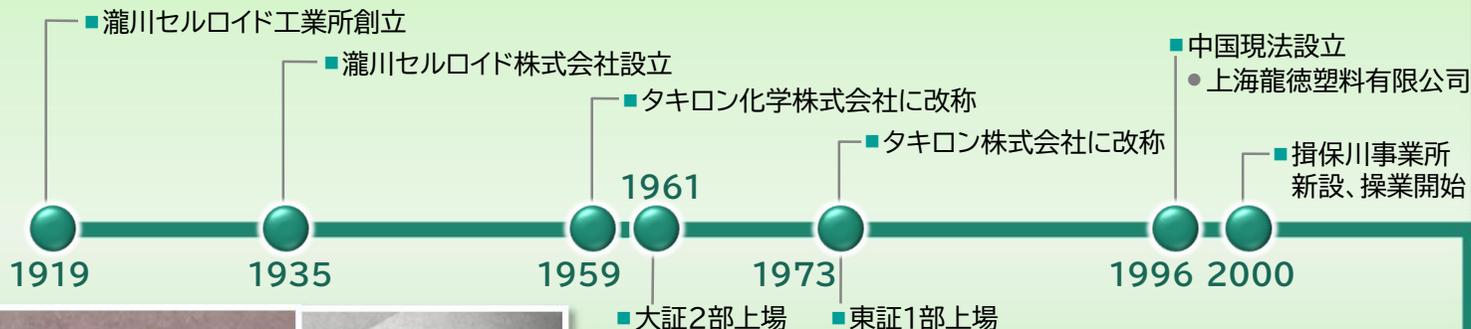


主要加入団体リスト (2022年5月末現在)

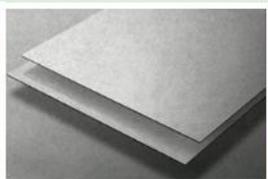
関西化学工業協会	JA包装園芸資材協会	日本プラスチック工業連盟
関西経済連合会	日本インテリア協会	日本プラスチック板協会
CLOMA(クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)	日本ビニル工業会	農業用フィルムリサイクル促進協会
塩化ビニル管・継手協会		

2. 会社沿革

タキロン(株)

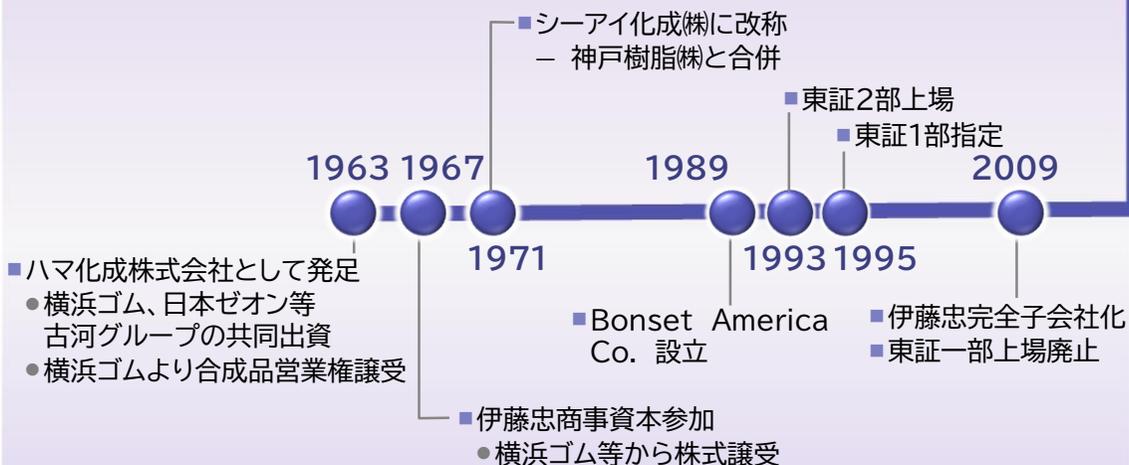


創業者：瀧川佐太郎



シーアイ化成(株)

紙や木、鉄がプラスチックへと置き換わる中、堅調に事業を拡大



タキロンシーアイ(株)



2017 創立100周年

経営統合

- タキロンシーアイ株式会社と
商号変更

3. 国内拠点

国内製造拠点: 25拠点



4. 海外拠点

海外製造拠点: 6拠点

BONLEX EUROPE
[イタリア ヴェネト]



BONSET AMERICA
[アメリカ ノースカロライナ]



上海桑普拉斯塑料
[中国 上海]



上海希愛化成電子
[中国 上海]



PT. TAKIRON INDONESIA
[インドネシア スラバヤ]



BONSET LATIN AMERICA
[ウルグアイ]

5. グループ概要

タキロンシーアイグループ

	国内	海外
建築資材事業		
住設建材事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● 三和サインワークス ● タキロンシーアイプラス 	
床・建装事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● タキロンマテックス 	<ul style="list-style-type: none"> ● BONLEX EUROPE
環境資材事業		
アグリ事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● 北海道サンプラス ● タキロンシーアイアグリ ● シーアイマテックス 	<ul style="list-style-type: none"> ● PT.TAKIRON INDONESIA
インフラマテリアル事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイライト ● タキロンシーアイシビル 	
高機能材事業		
高機能材事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● タキロンポリマー ● CIKナノテック ● タキロン・ローランド 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上海希愛化成電子
機能フィルム事業		
ボンセット事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● ボンパック 	<ul style="list-style-type: none"> ● BONSET AMERICA ● BONSET LATIN AMERICA
サンジップ事業部		<ul style="list-style-type: none"> ● 上海桑普拉斯塑料
その他関係会社		
	<ul style="list-style-type: none"> ● タキロンテック ● タキロンシーアイ物流 ● ダイプラ・ウィンテス ● マーベリックパートナーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上海世愛化成貿易



- 住設建材事業は、雨どい・排水ます等の水処理製品やポリカーボネート樹脂製高断熱中空パネル「ルメウォール」など、住宅から非住宅まで屋内への自然採光に幅広く使用される建材製品を扱っています
- 床・建装事業は、プールサイドやマンションの廊下、階段などの安全を守る優れた防滑性能を有する床材と、インテリアや建築物の意匠性を高める化粧フィルムを扱っています

住設建材事業

ポリカーボネート樹脂製
高断熱中空パネル「ルメウォール」



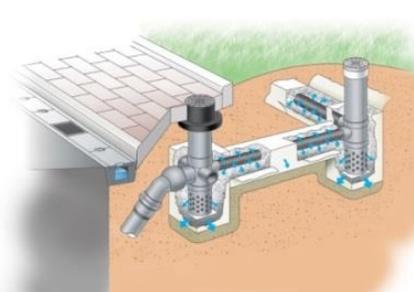
ポリカーボネート樹脂板



住宅資材(雨どい他)



管工機材



床・建装事業

防滑性ビニル床シート



内外装用建装資材



樹脂製化粧材



主要事業の強み

- ポリカーボネートの成形・加工技術
- ポリカーボネート建材における国内随一の製造能力
- トップシェアを有するポリカーボネート採光建材、防滑性塩ビ床材
- 建装材へ機能性を付与する総合的開発力
- 海外生産拠点(BLX)によるグローバル展開



- 環境資材事業本部は、農産物栽培に最適環境を提案するアグリ事業と、安全安心な社会環境の整備を支えるインフラマテリアル事業で構成
- アグリ事業は高機能農業用フィルムを中心に、農業発展に貢献
- インフラマテリアル事業は防水・遮水シート、高密度ポリエチレン管、その他関連資材の製造から施工までの展開で社会インフラを支えています

アグリ事業

農業用フィルム

Top Market Share



包装資材



灌水チューブ



主要事業の強み

- 業界シェア
- 生産技術力
- 営業体制・顧客サポート力
- 製販から設計・加工・施工までの対応力

インフラマテリアル事業

遮水シート

Top Market Share



止水板

Top Market Share



水膨張性止水材

Top Market Share



高耐圧ポリエチレン管
(取扱:関係会社)



大型ポリエチレン製樹脂タンク
(取扱:関係会社)





- PVC、PC、PET等の汎用・機能樹脂板を扱うプレート事業
- マイクロモータを扱うモータ事業
- 超微粒子、エンブラ素材、アセテート板を扱う各グループ会社で構成
- 半導体製造設備など産業基盤を支えるものから、生活を豊かにするものまで幅広い分野に製品を提供

プレート事業

モータ事業

工業用プレート

高機能ポリカーボネートプレート

制電プレート

マイクロモータ

Top Market Share

Top Market Share



アセテート板

(取扱:関係会社)

超微粒子マテリアル

(取扱:関係会社)

濾過板・大型切削加工

(取扱:関係会社)

主要事業の強み

- 業界で長きにわたり蓄積した技術力
- 顧客要望に応える高機能製品の豊富な品揃え
- 強固な販売ネットワーク
- 高い品質とブランド力

用途:メガネフレーム





- 「ボンセット」は日本生まれのシュリンクフィルム(熱収縮フィルム)のブランドで各種素材の特性を活かし、ラベル用、キャップシール用、成形品用等様々な用途・内容物に使用
- 「サンジップ」はプラスチックジッパーテープのブランドで食品分野をはじめ多様な分野で使用

ボンセット事業(熱収縮フィルム)

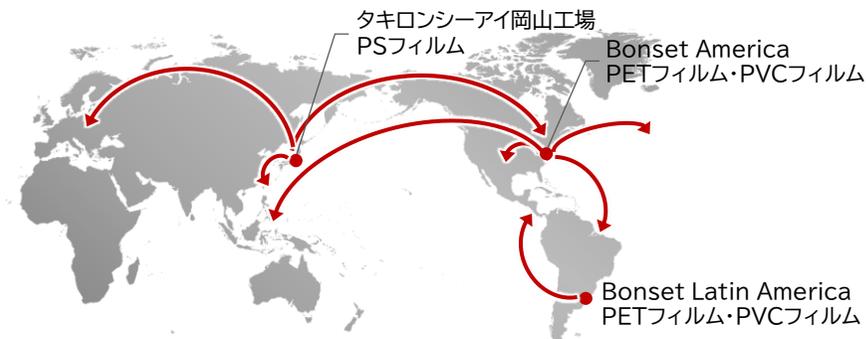
熱収縮フィルム
用途: 飲料用ラベル等



環境配慮型製品
ボタニカルフィルム

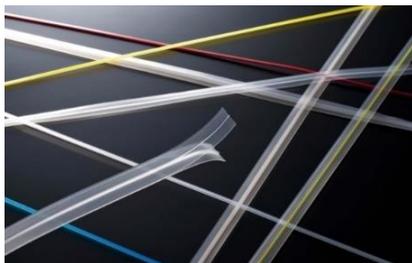


- 世界3極体制(日本・北米・南米)により世界中の需要に対応



サンジップ事業(ジッパー)

ジッパーテープ
用途: 食品包装用パウチ等



環境配慮型製品
セルローズ配合ジッパー



主要事業の強み

- 長年蓄積された製造加工技術とknowhow
- 独自の配合技術で用途に合わせた多様な製品の製造
- 国内(平塚・岡山)と海外(中国・アメリカ・ウルグアイ)に生産拠点を有し、グローバル最適地生産販売の構築(BCPにも対応)
- 金型の内製化によるお客様の要望へのきめ細やかな対応(サンジップ)
- 生分解、モノマテリアル、バイオマスなど環境配慮型製品のラインナップと開発の拡大

2023年3月期 第2四半期セグメント別実績

(事業)	2022年3月期第2四半期実績		2023年3月期第2四半期実績			
------	-----------------	--	-----------------	--	--	--

売上

(単位:百万円)

	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上計	70,417	100.0%	72,515	100.0%	+2,097	+3.0%
建築資材事業計	22,380	31.8%	22,259	30.7%	△120	△0.5%
住設建材事業	13,365	19.0%	13,324	18.4%	△40	△0.3%
床・建装事業	9,014	12.8%	8,934	12.3%	△79	△0.9%
環境資材事業計	26,194	37.2%	25,774	35.5%	△419	△1.6%
アグリ事業	16,752	23.8%	16,857	23.2%	+104	+0.6%
インフラマテリアル事業	9,441	13.4%	8,917	12.3%	△523	△5.5%
高機能材事業計	10,589	15.0%	11,665	16.1%	+1,076	+10.2%
機能フィルム事業計	11,049	15.7%	12,457	17.2%	+1,408	+12.7%
ボンセット事業	9,084	12.9%	10,687	14.7%	+1,603	+17.7%
サンジップ事業	1,965	2.8%	1,769	2.5%	△195	△9.9%

営業利益

(単位:百万円)

	金額	利益率	構成比	金額	利益率	構成比	増減額	増減率
営業利益計	4,792	6.8%	100.0%	3,090	4.3%	100%	△1,702	△35.5%
建築資材事業計	1,366	6.1%	28.5%	1,154	5.2%	37.3%	△211	△15.5%
住設建材事業	621	4.7%	13.0%	753	5.7%	24.4%	+132	+21.3%
床・建装事業	744	8.3%	15.5%	400	4.5%	12.9%	△344	△46.2%
環境資材事業計	671	2.6%	14.0%	△8	---	△0.3%	△680	---
アグリ事業	414	2.5%	8.6%	289	1.7%	9.3%	△124	△30.1%
インフラマテリアル事業	257	2.7%	5.4%	△298	△3.3%	△9.6%	△555	---
高機能材事業計	1,753	16.6%	36.6%	1,424	12.2%	46.1%	△329	△18.8%
機能フィルム事業計	1,096	9.9%	22.9%	483	3.9%	15.6%	△613	△56.0%
ボンセット事業	880	9.7%	18.4%	417	3.9%	13.5%	△463	△52.6%
サンジップ事業	216	11.0%	4.5%	65	3.7%	2.1%	△150	△69.6%

IRに関するお問い合わせ先

タキロンシーアイ株式会社
サステナビリティ戦略部
コーポレートコミュニケーショングループ

電話:03-6711-3718
e-mail:ir@takiron-ci.co.jp



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。